

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 基礎分野（科学的思考の基礎）</p> <p style="text-align: center;">文章理解</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 仲宗根 満寿美</p>
<p>〔授業の目的・概要〕</p> <p>救急救命士として必要な文章理解及び読解力を学び、併せて公務員採用試験で問われる文章理解及び国語問題の解法テクニックを学ぶことで、文章読解力を含め国語の基礎力を高める。基礎的な問題演習を通して、教養試験の出題パターンと解法テクニックを学ぶ。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】『教養試験の出題パターンを知る』コミュニケーション1（ラポールスキル）</p> <p>【第2回】『現代文の基礎』文の構造・文法・実力テスト</p> <p>【第3回】『現代文』内容把握・要旨把握の出題パターン</p> <p>【第4回】『現代文』内容把握・要旨把握の解き方</p> <p>【第5回】『古文・漢文』の出題パターン</p> <p>【第6回】『漢文の基礎』文法</p> <p>【第7回】『漢文の解き方』</p> <p>【第8回】『古文の基礎』古語の意・文法</p> <p>【第9回】『古文の解き方』</p> <p>【第10回】『現代文』文章整序の解き方</p> <p>【第11回】『現代文』空欄補充の解き方</p> <p>【第12回】『国語の基礎1』漢字</p> <p>【第13回】『国語の基礎2』四字熟語・ことわざ・故事成語</p> <p>【第14回】『国語の基礎3』文芸史</p> <p>【第15回】『定期試験』期末テスト</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>地方初級・国家一般職テキスト・過去問題集</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 基礎分野（科学的思考の基礎） 数的推理</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 中村 昌利</p>
<p>〔授業の目的・概要〕 数学および数的推理を学ぶことにより救急救命士としての問題を解決する能力を醸成するとともに、公務員試験対策の一環として、数学・数的推理について理解を深めるとともに、基礎数学を理解し、薬理学計算およびボンベ残圧計算などの基礎学力の向上を目的とする。 講義の進め方は数学・数的推理、両分野とも当該単元の問題を解くために必要な考え方や公式を説明してから、その内容の問題演習を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第1回】数と式1 【第2回】数と式2 【第3回】方程式と不等式 【第4回】関数 【第5回】関数のグラフと方程式・不等式 【第6回】三角比 【第7回】数列 【第8回】数学分野試験 【第9回】文章題1 【第10回】文章題2 【第11回】文章題3 【第12回】図形 【第13回】場合の数1 【第14回】場合の数2 【第15回】数的推理分野試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 2年 後期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 基礎分野（人間と人間生活） プレゼンテーション概論
〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 渡嘉敷智子
〔授業の目的及び概要〕 自己表現のためのプレゼンテーション技法を身につける。また、ビジネスマナーの基本を踏まえた理想的な社会人像を目標とし、第一印象向上の方法を模索する。社会人として仕事の現場での対応の基本を習得し、実践の場での活用に繋げる。 プレゼンテーション能力向上に繋がるテーマに基づいて授業を展開する。ビジネスマナーの5原則を基本に第・姻]象向上を図る。	
〔授業内容〕 【第1回】『オリエンテーション』 講義内容と方針・ビジネスマナーの意義と重要性 【第2回】『自己分析（自画像作成）』ファーストインスピレーションチェックデータから 【第3回】『プレゼンテーション』 プレゼンテーションの方法・各自実践F 他己紹介 【第4回】『発声の基本』 腹式呼吸法・滑舌・強弱・遅速・アクセントなど 【第5回】『発声の応用・即答トレーニング』自分の声のトーンを確立する・即興自己アピール 【第6回】『第一印象を高める方法』第一印象の重要性を認識しその方法を模索する 【第7回】『基本動作・応用動作』立ち姿・お辞儀・物の授受など各種所作を整える 【第8回】『挨拶・表情・身だしなみ』挨拶の重要性と効果的な方法・見た目効果の活用 【第9回】『言葉遣い・敬語（基本）』敬語の基本一丁寧語・尊敬語・謙譲語・変換ルール 【第10回】『言葉遣い・敬語（応用）』職場用語・クッション言葉一場に応じた話し方 【第11回】『訪問一来客案内・上席・接遇』接客関連動作・上席の判断方法・お茶の出し 【第12回】『質疑応答とコミュニケーション』応答の方法とコミュニケーションの方法と活用 【第13回】『報告書・手紙一封筒』報告書の基本・御礼状の書き方一封筒の表書き 【第14回】『作文・論文作成』作文と論文の違い・3部構成（序論一本論・結論） 【第15回】『学期末テスト』 履修項目の確認	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 自主編成教材 （テーマに応じて講師が資料を提供する）

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次及び期間〕 2年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 基礎分野（人間と人間生活） 心理学</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 當間 泰子</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕</p> <p>心理学とは、一般の人間の心(精神)を研究する学問であると言われている。人間を相手の救急救命士を目指す学生は、人間の行動を知り、自己や他の人間同士のコミュニケーション能力を高める必要がある。また、今日の心理学は行動の科学、学問とも言われているが、この教科の内容を知り、科学的な知識を学習する事によって、将来において、様々な人間を多面的に捉える事ができる視野を養成する。</p> <p>講義は、テキストを中心に進める。その中で、必要に応じて、心理学の査定(アセスメント)や心理学の療法(セラピー)等の実習や演習等もそれぞれ数回取り入れる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>全15回(コマ)で実施する。</p> <p>【第1回】オリエンテーション</p> <p>【第2回】心理学とは何か (テキスト1章)</p> <p>【第3回】感覚・知覚・認知 (テキスト2章)</p> <p>【第4回】学習と記憶 (テキスト3章)</p> <p>【第5回】欲求と感情 (テキスト4章)</p> <p>【第6回】乳児期・児童期 (テキスト5章)</p> <p>【第7回】青年期・成人期・老年期 (テキスト5章)</p> <p>【第8回】自己・性格・人格 (テキスト6章)</p> <p>【第9回】対人認知 (テキスト7章)</p> <p>【第10回】表情と情動 (テキスト9章)</p> <p>【第11回】態度と説得 (テキスト10章)</p> <p>【第12回】攻撃と援助 (テキスト11章)</p> <p>【第13回】人間関係 (テキスト12章)</p> <p>【第14回】「心理学」試験</p> <p>【第15回】「心理学」まとめ、試験解答と返却</p>	
<p>単位認定の方法及び基準]</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>「やさしい心理学」</p> <p>必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	〔実施年次及び期間〕 <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
〔教育内容〕 <p style="text-align: center;">講 義</p>	〔科目名〕 基礎分野（科学的思考の基礎） <p style="text-align: center;">生化学</p>
〔時間、単位数〕 <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	〔担当教員及び実務経験〕 中玉利 澄男
〔授業の目的・概要〕 人体を細胞レベル、遺伝子レベルから学び医学的知識に結び付けることにより救急救命士としての資質の向上と研鑽を積み、救急救命士国家試験頻出問題の基礎・基本も合わせて履修する。	
〔授業内容〕 【第1回】『化学の基礎知識』 分子式と構造式・ 原子の結合 【第2回】『結合』 【第3回】『細胞』 動物細胞・植物細胞・細菌細胞 【第4回】『細胞を構成する化学物質』 糖 【第5回】『脂質・アミノ酸』 【第6回】『核酸と ATP』 【第7回】『代謝生化学』 【第8回】『中間試験』 【第9回】『代謝生化学2』 【第10回】『核酸と遺伝子』 【第11回】『ウイルスの増殖』 【第12回】『遺伝子工学』 【第13回】『酵素とは』 【第14回】『生体の生化学』 【第15回】『定期試験』 期末試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 生化学ノート 必要に応じ資料を配布

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 基礎専門分野（人体の構造と機能） 人体の構造</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 蔵元 秀一</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕</p> <p>医学の基本である人体の構造を理解する。人体の構造を理解することにより医学的根拠に結び付けられるよう解剖学の基礎を習得する。</p> <p>重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 ガイダンス（授業の進め方）『人体を構成する要素』</p> <p>【第2回】 『人体の作りとその役割』 細胞・組織・臓器</p> <p>【第3回】 『体液』 体液の組成・細胞外液・細胞内液</p> <p>【第4回】 『体液』 電解質・酸塩基平衡・浸透圧・電解質と体液調整のメカニズム</p> <p>【第5回】 『人体の位置・方向・運動に関する用語』 軸と面・帯・点と線・間接運動の方向</p> <p>【第6回】 『体表からみた構造と名称』 体表の観察・頭部（顔部）の構造・頸部の構造</p> <p>【第7回】 『体表からみた構造と名称』 胸部の構造・腹部の構造・会陰部の構造</p> <p>【第8回】 中間試験</p> <p>【第9回】 『体表からみた構造と名称』 上肢の構造・下肢の構造</p> <p>【第10回】 『体表から見える解剖学的指標』</p> <p>【第11回】 『身体各部位の役割』 頭部（顔部）の役割・胸部の役割</p> <p>【第12回】 『身体各部位の役割』 腹部の役割・四肢骨盤の役割</p> <p>【第13回】 『体腔内臓器の体表からの位置関係』 頭蓋腔</p> <p>【第14回】 『体腔内臓器の体表からの位置関係』 胸腔・腹腔</p> <p>【第15回】 定期試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版</p> <p>全部わかる人体解剖図</p> <p>必要に応じ資料を配付する。</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 1年 前期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 基礎専門分野（人体の構造と機能） 人体の機能
〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 蔵元 秀一
〔授業の目的及び概要〕 人体の構造を基に細胞や各臓器がどのように働き、どのように機能するかを基礎から学び、医学的に理解することにより疾患に結びつけられるように解剖学における機能の基礎を習得する。重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを使用し、理解へと務める。	
〔授業内容〕 【第1回】『ガイダンス』講義の進め方等『神経系』神経系の構成と役割 【第2回】『神経系』中枢神経系・末梢神経系 【第3回】『神経系』伝導路・自律神経系 【第4回】『神経系』脳循環・意識・反射 【第5回】『感覚系』感覚系の構成と役割・視覚・平衡感覚・聴覚器 【第6回】『感覚系』臭覚器・味覚器・皮膚感覚器 【第7回】『呼吸系』呼吸系の構成と役割 【第8回】『呼吸系』呼吸・気道 【第9回】『呼吸系』胸郭・肺・肺でのガス交換 【第10回】『呼吸系』体内での酸素の動き・呼吸の調節 【第11回】『循環系』循環系の構成と役割 【第12回】『循環系』心臓 【第13回】『循環系』脈管 【第14回】『循環系』循環の制御 【第15回】定期試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 全部わかる人体解剖図

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門基礎分野 (疾患の成り立ちと回復の過程) 疾病の科学</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 南出 千景</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急医療のなかで、生命の誕生から死までの生い立ちや体内の科学を学び、生きるために必要なエネルギーや細胞の働き、変異や腫瘍、死体現象といった生体科学を学ぶ。 解剖学を通じて、疾患の成り立ちから死までの生体に関わる変化を学ばせ、救急医療や社会的に必要な疾患の基礎を習得させる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス（講義の進め方等）『炎症と感染』 炎症 【第2回】 『炎症と感染』 感染症 【第3回】 『循環障害』 虚血・うっ血・出血 【第4回】 『循環障害』 血栓と塞栓・梗塞・浮腫 【第5回】 『代謝障害』 糖質の代謝異常・脂質の代謝異常・蛋白質の代謝異常・内分泌異常 【第6回】 『代謝障害』 ビタミンの代謝異常・体液と電解質異常・酸塩基平衡異常 【第7回】 『退行性病変と進行性病変』 退行性病変 【第8回】 『退行性病変と進行性病変』 進行性病変 【第9回】 『腫瘍』 良性腫瘍・悪性腫瘍 【第10回】 『先天異常』 内因性先天異常 【第11回】 『先天異常』 外因性先天異常 【第12回】 『損傷』 損傷・創傷治癒・ 【第13回】 『死』 死の概念・死体現象 【第14回】 『死』 死にかかわる手続きと検査・死体の尊厳 【第15回】 定期試験 	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 全部わかる人体解剖図 ※その他必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 1年 後 期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 専門基礎分野（疾病の成り立ちと回復の過程） 薬の化学
〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 笠原 大吾 薬剤師としての経験
〔授業の目的・概要〕 救急救命士が救急現場において薬剤投与する事があることから、薬理学の基礎から救急救命士が使用する薬剤について学ぶことにより、救急救命士に必要な薬理についての知識を深めるとともに薬がどのように効き、疾病から回復（治療）するのかを学ぶ。	
〔授業内容〕 【第 1 回】 ガイダンス（講義の進め方等）『薬物と検査の基礎知識』 医薬品の基礎 【第 2 回】 『薬物と検査の基礎知識』 医薬品の基礎 【第 3 回】 『薬物と検査の基礎知識』 薬物の代謝 【第 4 回】 『薬物と検査の基礎知識』 薬物の有害作用 【第 5 回】 『薬物と検査の基礎知識』 重要な医薬品（緊急治療に用いられる薬剤） 【第 6 回】 『薬物と検査の基礎知識』 重要な医薬品 【第 7 回】 『薬物と検査の基礎知識』 使用頻度の高い薬品 【第 8 回】 『薬物と検査の基礎知識』 使用頻度の高い薬品 【第 9 回】 『薬物と検査の基礎知識』 使用頻度の高い薬品 【第 10 回】 『薬物と検査の基礎知識』 輸液・輸血製剤 【第 11 回】 『薬物と検査の基礎知識』 保存と保守管理 【第 12 回】 『薬物と検査の基礎知識』 検査 【第 13 回】 『薬物と検査の基礎知識』 検査の目的・検査の種類 【第 14 回】 『薬物と検査の基礎知識』 緊急検査 【第 15 回】 『定期試験』 期末試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命 学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 基礎専門分野(健康と社会保障) 公衆衛生概論</p>
<p>〔時間および単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 安里 常要 救急救命士（消防職）としての経験</p>
<p>〔授業の目的・概要〕</p> <p>救急救命士(医療人)として時代の流れとともに変化してきた疾病構造や、その要因のひとつである環境について理解する。また、子どもから高齢者までの健康問題、社会保障や社会福祉についての公衆衛生学を習得する。併せて、健康の定義、医療費や社会保障の内容、医療関連法規について医学の基本である「公衆衛生学」を基礎から学び医療人としての動態を習得させる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1 回】:『ガイドンス』講義の進め方・『保健医療制度の仕組みと現状』公衆衛生の仕組み 【第 2 回】:『保健医療制度の仕組みと現状』医療を取り巻く環境 【第 3 回】:『保健医療制度の仕組みと現状』疾病構造の変化 【第 4 回】: 講義確認試験・『保健医療制度の仕組みと現状』医療供給体制 【第 5 回】:『保健医療制度の仕組みと現状』在宅医療と地域包括ケア 【第 6 回】:『保健医療制度の仕組みと現状』環境保健・労働衛生を支える仕組み 【第 7 回】:『保健医療制度の仕組みと現状』学校保健を支える仕組み 【第 8 回】:『社会保障と社会福祉を支える仕組み』社会保障 【第 9 回】: 講義確認試験・『社会保障と社会福祉を支える仕組み』社会福祉の仕組み 【第 10 回】:『社会保障と社会福祉を支える仕組み』介護保険制度・年金保険制度 【第 11 回】:『社会保障と社会福祉を支える仕組み』生活保護・児童福祉 【第 12 回】:『社会保障と社会福祉を支える仕組み』高齢者福祉 【第 13 回】: 講義確認試験『社会保障と社会福祉を支える仕組み』母子寡婦福祉 【第 14 回】:『社会保障と社会福祉を支える仕組み』障害者福祉 【第 15 回】: 定期試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA : 80～100 点 B : 70～79 点 C : 60～69 点 D : 59 点以下とし、C 以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト及び参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士標準テキスト（上） ・必要に応じ資料配布

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 1年 前 期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 専門分野（救急医学概論） 救急医学総論
〔時間および単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 安里 常要 救急救命士（消防職）としての経験
〔授業の目的・概要〕	
救急救命士の業務と使命を十分理解し、救急救命士になるために学ばなければならない救急医学の概要を修得する。救急医療発展の歴史と救急救命士誕生の背景、救急救命士の業務と責任、病院前救護(プレホスピタルケア)におけるメディカルコントロール体制の重要性、救急救命士に求められる倫理などについて学習する。講義はテキストに沿って進め、救急医療の背景や歴史を学ぶことで医療を理解し、救急医療の成り立ちを把握する。また、テーマ研究や発表、プレゼンテーションなどを取り入れることにより、自身の資格に対する関係法規や役割、責任について考えさせ学ぶ。	
〔授業内容〕 【第 1 回】：ガイダンス・生命倫理と医の倫理 【第 2 回】：救急療体制 【第 3 回】：災害医療体制 【第 4 回】：災害医療体制・講義確認テスト 【第 5 回】：病院前医療体制 【第 6 回】：消防機関における救急活動の流れ 【第 7 回】：救急救命士と傷病者の関係 【第 8 回】：救急救命士の役割と責任・講義確認テスト 【第 9 回】：救急救命士に関する法令 【第 10 回】：救急救命士の養成と生涯教育 【第 11 回】：安全管理と事故対応 【第 12 回】：感染対策・講義確認テスト 【第 13 回】：感染対策 【第 14 回】：ストレスに対するマネジメント 【第 15 回】：定期試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 ・救急救命士標準テキスト（上） ・必要に応じ資料配布

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急医学概論） 救急処置各論Ⅰ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 高嶺 和寛 救急救命士（病院勤務）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 救急現場で救急隊員、救急救命士が行う傷病者の観察方法について理解する。また、観察内容を通じて基本的な病態を理解することで、観察の必要性や鑑別能力を高める。 テキストに沿って授業を行い、救急資機材、観察用資機材を使用し互いにし各種処置及び観察を実施することで基本知識及び手技を習熟させる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 ガイダンス（講義の進め方等） 『観察』 観察の目的と意義 【第2回】 『観察』 バイタルサイン 呼吸・脈拍・血圧・体温・意識 【第3回】 『観察』 観察の方法（問診・視診） 【第4回】 『観察』 観察の方法（聴診・触診・打診） 【第5回】 『現場活動の基本』 状況評価（感染防御・携行資機材確認・安全確認と二次災害防止） 【第6回】 『現場活動の基本』 全身観察と重点観察（全身観察・重点観察） 【第7回】 『現場活動の基本』 緊急度・重症度判断と医療機関選定（緊急度・重症度・病院選定） 【第8回】 『現場活動の基本』 搬送と車内活動（搬送・継続観察・詳細観察） 【第9回】 『局所の観察』 【第10回】 『局所の観察』 【第11回】 『局所の観察』 【第12回】 『局所の観察』 【第13回】 『緊急度・重症度判断』 【第14回】 『緊急度・重症度判断』 【第15回】 定期試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 救急資器材マニュアル 必要に応じ資料配布</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急医学概論） 救急救命士各論Ⅱ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 高嶺 和寛 救急救命士（病院勤務）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急救命処置を中心に各論や処置についての医学的根拠、機器取扱いや特定行為の必要性を学、処置についての適応や禁忌が判断できる知識を習得させる。 実践的な器具の使い方、実技の説明のみならず基礎的な知識の習得を目的に薬理学、生理学的、臨床医学的に説明する。救急救命士が使用する器具、薬剤等についての基礎知識を習得させ、救急救命士が行う特定行為および、心肺蘇生法の医学的基礎知識を習得させる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 『資器材による観察』 パルスオキシメーター・カプノメーター・聴診器 【第2回】 『資器材による観察』 血圧計・心電図モニター・体温計・血糖測定器 【第3回】 『救急救命士が行う処置』 処置の目的と意義・気道確保・口腔内の吸引 【第4回】 『救急救命士が行う処置』 声門上気道デバイスを用いた気道確保 【第5回】 『救急救命士が行う処置』 気管挿管 【第6回】 『救急救命士が行う処置』 気管吸引・酸素投与・人工呼吸 【第7回】 『救急救命士が行う処置』 胸骨圧迫・自動式心マッサージ器の使用 【第8回】 『救急救命士が行う処置』 除細動 【第9回】 『救急救命士が行う処置』 静脈路確保と輸液・アドレンリン投与 【第10回】 『救急救命士が行う処置』 自己注射用アドレナリンの投与・ブドウ糖の投与 【第11回】 『救急救命士が行う処置』 体位管理・体温管理・止血・創傷処置・固定 【第12回】 『救急救命士が行う処置』 成人小児乳児の救急救命士 【第13回】 『在宅療法継続中の傷病者の処置』 在宅療法への対応 【第14回】 『傷病者搬送』 搬送総論・搬送方法・搬送手順・事故車両からの救出等 【第15回】 定期試験 	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 救急器材マニュアル 必要に応じ資料配布</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 救急症候学 I</p>
<p>〔時間、単位数〕 60 時間 4 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 医師として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>救急医療の基本となる病態生理学をはじめ、各論を説明する。また、発生機序を含め、解剖学的、生理学的な観点からも病態を理解させる。救急医療の基本となる病態生理学を理解し、問診、観察の必要性と関連性を把握する。</p> <p>テキストを基準に講義を進めるが、必要に応じて資料配布やスライド等による講義を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1～2 回】 『意識障害』 原因・随伴症状・判断を要する病態・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 3～4 回】 『頭痛』 発生機序・分類・原因疾患・発生の状況・性状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 5～6 回】 『痙攣』 定義概念・病態・種類・原因疾患・随伴症状・判断を要する病態等</p> <p>【第 7～8 回】 『運動麻痺』 定義概念・発生機序・原因疾患・随伴症状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 9～10 回】 『めまい』 定義概念・発生機序・原因疾患・随伴症状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 11～12 回】 『呼吸困難』 定義概念・発生機序・原因疾患・随伴症状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 13～14 回】 『咯血』 定義・分類・咯血による影響・原因疾患・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 15 回】 定期試験（中間試験）</p> <p>【第 16～17 回】 『失神』 定義概念・原因疾患・緊急度重症度の判断・現場活動等</p> <p>【第 18～19 回】 『胸痛』 定義概念・発生機序・原因疾患・緊急度重症度の判断・現場活動</p> <p>【第 20～21 回】 『動悸』 定義概念・発生機序・原因疾患・随伴症状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 22～23 回】 『腹痛』 発生機序・原因疾患・既往歴・随伴症状・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 24～25 回】 『吐血・下血』 定義概念・原因疾患・病態・緊急度重症度の判断・現場活動等</p> <p>【第 26～27 回】 『腰痛・背部痛』 定義概念・原因疾患・緊急度重症度の判断・現場活動等</p> <p>【第 28～29 回】 『体温上昇』 定義概念・発生機序・病態・原因疾患・緊急度重症度の判断等</p> <p>【第 30 回】 定期試験（期末試験）</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第 9 版</p> <p>必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生）</p> <p style="text-align: center;">救急症候学Ⅱ</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 山口 裕</p> <p style="text-align: center;">医師として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>救急医療の中でも最も最重症であり、救急救命処置を行わなくてはならない心肺停止からはじまり、その他の随伴症状、自覚的所見だけではなく、他覚的所見から考えられる疾患や病態生理学、各論を学ぶ。</p> <p>心肺停止をはじめとする、救急医療の最重症となる症状から、心肺停止に至る前の状態や所見を学ぶことにより、心肺停止前に救命することができる、または適切な観察、判断により適切な医療機関へ搬送するための情報収集を身につける。全30回で急性期障害の病態各論を学ぶ。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1～ 2回】 『神経疾患』 総論・脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等</p> <p>【第 3～ 4回】 『呼吸系疾患』 総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症等</p> <p>【第 5～ 6回】 『循環系疾患』 総論・動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋梗塞等</p> <p>【第 7～ 8回】 『消化器系疾患』 総論・歯、口腔疾患・食道疾患。胃十二指腸疾患・腸疾患等</p> <p>【第 9～10回】 『泌尿・生殖系疾患』 総論・腎臓の疾患・尿路の疾患・生殖器の疾患等</p> <p>【第 11～12回】 『代謝・内分泌・栄養系疾患』 糖尿病のみ</p> <p>【第 13～14回】 『血液・免疫系疾患』 総論・血液疾患・免疫疾患</p> <p>【第 15回】 定期試験（中間試験）</p> <p>【第 16～17回】 『筋・骨格系疾患』 総論・脊髄疾患・関節疾患・筋疾患</p> <p>【第 18～19回】 『皮膚系疾患』 総論・皮膚、軟部組織の感染症・アレルギー疾患・その他疾患</p> <p>【第 20～21回】 『眼・耳・鼻の疾患』 総論・眼の疾患・耳の疾患・鼻の疾患</p> <p>【第 22～23回】 『感染症』 総論・敗血症・結核・インフルエンザ・輸入感染症・性感染症等</p> <p>【第 24～25回】 『小児に特有の疾患』 総論・観察と判断・主な疾患</p> <p>【第 26～27回】 『高齢者に特有な疾患』 総論・主な疾患</p> <p>【第 28～29回】 『精神障害』 総論・統合失調症・気分障害・器質性精神障害・中毒性障害等</p> <p>【第 30回】 定期試験（中間試験）</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版</p> <p>必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 救急症候学Ⅲ</p>
<p>〔時間、単位数〕 45 時間 3 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 玉那覇 敏男 救急救命士（消防職員）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 症候学Ⅲは、心電図に特化した内容とし、併せて心電図とつながる循環器疾患を学ぶ。救急救命士に新たに認められた処置拡大項目を基礎から学び、知識を習得し心肺停止前の傷病者に対するアプローチや問診等を的確に行える知識を身につける。 心電図基本知識、心電図解釈ができ、心電図から読み取れる循環器疾患を鑑別できる知識を習得する。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第 1～ 5 回】 ガイダンス・『心電図の解説』心電図の基礎 【第 6～ 7 回】 『心電図の解説』 頻脈性不整脈の心電図 【第 8～ 9 回】 『心電図の解説』 除脈性不整脈 【第 10～12 回】 『心電図の解説』 心筋の虚血性変化 【第 13～14 回】 『心電図の解説』 その他の心電図異常 【第 15 回】 『定期試験』 中間試験 【第 15～16 回】 『循環器疾患』 うっ血性心不全（急性冠症候群・急性心筋梗塞・不安定狭心症） 【第 17～19 回】 『循環器疾患』 心筋疾患（心筋症・心筋炎）心膜疾患（心カポナテ・急性心膜炎） 【第 20～21 回】 『循環器疾患』 不整脈（房室ブロック・QT 延長症候群・WPW 症候群等） 【第 22～23 回】 『循環器疾患』 その他の心疾患（心臓弁膜症等）・血管疾患（急性大動脈解離等） 【第 24 回】 『定期試験』 期末試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 2年前期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 疾病救急 I
〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 玉那覇 敏男 救急救命士（消防職）として実務経験
〔授業の目的および概要〕 基本となる代謝疾患を中心に学ぶ。解剖学的観点あるいは臓器別の観点から、救急現場でよく遭遇する疾患について学び、各部位と関連づけながら疾患を理解する。	
〔授業内容〕 【第 1 回】『ガイダンス』講義の進め方等『代謝・内分泌・栄養系疾患』総論 【第 2 回】『代謝異常』 脱水・水電解質異常・酸塩基平衡の異常等) 【第 3 回】『内分泌疾患』 甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症・副腎機能異常 【第 4 回】『栄養系疾患』 肥満・るいそう・ビタミン欠 【第 5 回】『血液・免疫系疾患』 救急医療における意義・血液、免疫疾患の主症候 【第 6 回】『血液・免疫系疾患』 基本対応 （緊急度重症度の判断) 【第 7 回】『血液疾患』 貧血・血小板減少症 【第 8 回】『血液疾患』 白血病 【第 9 回】『血液疾患』 血友病・紫斑病 【第 10 回】『血液疾患』 播種性血管内凝固症候群(DIC) 【第 11 回】『血液疾患』 顆粒球減少症・止血に影響を与える薬剤 【第 12 回】『免疫疾患』 アナフィラキシー 【第 13 回】『免疫疾患』 アレルギー疾患 【第 14 回】『免疫疾患』 自己免疫疾患・膠原病 【第 15 回】『定期試験』	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第 9 版 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 疾病救急Ⅱ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 玉那覇 敏男 救急救命士（消防職）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 少子高齢化社会において、高齢者の全人口に占める割合が25%を超え、また高齢者の救急搬送に占める割合も50%を超え、今後も増加が予測されることを踏まえ、高齢者に密接な関わりのある、高齢者疾患特有の疾患や感染症の発生機序や病態について習得させる。 主たる感染症を中心に稀少感染症、高齢者疾患との関わりやその内容についてスライド等を使用し解説する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 ガイダンス・『感染症』総論（疫学と救急医療の意義・感染症法・予防接種等）</p> <p>【第2回】 『感染症』敗血症（定義、概念・病態・症候）</p> <p>【第3回】 『感染症』結核（疫学・病態・肺以外の病変・医療機関での診療）</p> <p>【第4回】 『感染症』インフルエンザ（季節性インフルエンザ・大流行が危惧されるインフルエンザ）</p> <p>【第5回】 『感染症』食中毒（ノロウイルス・腸管出血性大腸炎・その他の食中毒）</p> <p>【第6回】 『感染症』輸入感染症（マラリア・性菌性赤痢・アメーバ赤痢・デング熱・MERS）</p> <p>【第7回】 『感染症』発疹性感染症（麻疹・風疹・水痘、帯状疱疹）</p> <p>【第8回】 『感染症』性感染症（HIV・AIDS）・その他の感染症（破傷風・ガス壊疽）</p> <p>【第9回】 『定期試験』</p> <p>【第10回】 『高齢者に特有な疾患』総論（加齢と老化・高齢者疾患の置かれた状況）</p> <p>【第11回】 『高齢者に特有な疾患』総論（高齢者疾患の症候・高齢者傷病者への対応）</p> <p>【第12回】 『高齢者に特有な疾患』主な疾患（認知症・高齢者虐待・せん妄・誤嚥性肺炎）</p> <p>【第13回】 『高齢者に特有な疾患』主な疾患（肺気腫・脱水）</p> <p>【第14回】 『高齢者に特有な疾患』主な疾患（骨粗鬆症・前立腺肥大症・廃用症候群）</p> <p>【第15回】 『定期試験』</p>	
<p>単位認定の方法及び基準</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版</p> <p>必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 通年</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 疾病救急Ⅲ</p>
<p>〔時間、単位数〕 60 時間 4 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 玉那覇 敏男 救急救命士（消防職）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 救急現場でよく見られる疾患の理解を深める。 基礎疾患を元に更に詳細に疾患別に学び、各分野の基礎疾患をはじめ具体的徴候、症状を理解し救急救命士に必要な専門性の構築を図る。また、重症度、緊急度を理解し搬送先選定の具体的根拠がプレゼンテーションできる知識を養う。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第 1～2 回】 『検査』 検査の目的・基準値、カットオフ値、パニック値・検査の種類・緊急検査 【第 3～ 5 回】 『神経系疾患』 総論・脳血管障害・中枢神経の感染症・末梢神経疾患等 【第 6～ 7 回】 『呼吸器系疾患』 総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患 【第 8～ 9 回】 『呼吸器系疾患』 感染症（肺炎・肺結核）胸膜疾患・その他の呼吸疾患 【第 10～11 回】 『循環器系疾患』 総論（循環器疾患の主要症状・基本的対応等） 【第 12～13 回】 『循環器系疾患』 動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋疾患 【第 14～15 回】 『循環器系疾患』 新膜疾患・不整脈・その他の心疾患・血管疾患 【第 16 回】 『定期試験』 講義確認試験 【第 17～19 回】 『消化器系疾患』 総論・食道疾患・腸疾患・肝臓、胆道、膵臓の疾患 【第 20～23 回】 『泌尿・生殖器系疾患』 総論・腎臓の疾患・尿路の疾患等 【第 24～26 回】 『筋・骨格系疾患』 総論・脊髄疾患・関節疾患・筋疾患 【第 27～29 回】 『皮膚・感覚器系疾患』 総論・アレルギー性疾患・眼の疾患・耳の疾患等 【第 30 回】 『定期試験』 期末試験</p>	
<p>単位認定の方法及び基準] ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C 以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第 9 版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） 小児学</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員実務経験〕 岡 正二郎 医師として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急救命士が救急現場において小児を扱うことが多い。医学知識としての小児の疾病全般に関する知識を習得する。小児特有の救急疾患を基礎から学び、成人と小児の相違点や小児にしか見られない疾患等を中心に講義を進めていく。小児の中でも、新生児や乳児といった普段関わることが少ない傷病者へのアプローチ方法やバイタル測定の方法等を学び対応できる能力を養う。小児疾病に関する概論講義を行う。スライドやレジュメ等を使用し進行していく。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第1回】 ガイダンス（講義の進め方等）『小児に特有な疾患』 【第2回】 『小児に特有な疾患』 【第3回】 『小児に特有な疾患』 【第4回】 『小児に特有な疾患』 【第5回】 『小児に特有な疾患』 【第6回】 『小児に特有な疾患』 【第7回】 『小児に特有な疾患』 【第8回】 『小児に特有な疾患』 【第9回】 『小児に特有な疾患』 【第10回】 『妊婦・分娩の救急疾患』 【第11回】 『妊婦・分娩の救急疾患』 【第12回】 『妊婦・分娩の救急疾患』 【第13回】 『新生児の観察と処置』 【第14回】 『新生児の観察と処置』 【第15回】 定期試験</p>	
<p>単位認定の方法及び基準] ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	〔実施年次および期間〕 <p style="text-align: center;">2年 後期</p>
〔教育内容〕 <p style="text-align: center;">講 義</p>	〔科目名〕 専門分野（救急症候・病態生） <p style="text-align: center;">特殊病態</p>
〔時間、単位数〕 <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	〔担当教員及び実務経験〕 大嶺 ふじ子
〔授業の目的および概要〕 救急救命士が救急現場において特殊事例（分娩）を扱うことから、医学知識としての特殊事例全般に関する知識を習得する。妊娠から流産、分娩、介助、新生児管理といった一連の生命誕生に対する救急救命士が行える処置を学び、希少な出動ではあるこのような状態の傷病者に出会っても、冷静に対応できる知識、技術を身につけ、生命誕生の介助を実施できる人材を育成する。スライド等を使用し、救急救命士標準テキスト改訂第9版を中心に救急救命士が行える分娩介助、新生児管理等について行う。また、婦人科系疾患について習得する。	
〔授業内容〕 【第1回】 ガイダンス（講義のすすめかた等）『泌尿・生殖系疾患』（婦人科のみ） 【第2回】 『泌尿・生殖系疾患』（婦人科のみ） 【第3回】 『妊婦・分娩と救急疾患』 正常妊娠（受精と着床・胎児・胎児附属物） 【第4回】 『妊婦・分娩と救急疾患』 正常妊娠（妊娠週数・妊娠による母体の変化） 【第5回】 『妊婦・分娩と救急疾患』 異常妊娠（妊娠初期の異常・妊娠中期の異常） 【第6回】 『妊婦・分娩と救急疾患』 異常妊娠（切迫早産・前期破水・妊娠高血圧症候群・子癇） 【第7回】 『妊婦・分娩と救急疾患』 異常妊娠（HELLP 症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離） 【第8回】 『分娩介助』 正常分娩（分娩第1期・分娩第2期・分娩第3期） 【第9回】 『分娩介助』 異常分娩（早産・前期破水・骨盤位分娩・子宮破裂） 【第10回】 『分娩介助』 異常分娩（子宮内反・羊水塞栓・弛緩出血） 【第11回】 『新生児蘇生』 観察と処置（妊婦の観察と処置） 【第12回】 『新生児蘇生』 観察と処置（妊婦の観察と処置・新生児の観察と処置） 【第13回】 『新生児蘇生』 観察と処置（新生児の観察と処置） 【第14回】 『新生児蘇生』 観察と処置（新生児の観察と処置・医療機関選定） 【第15回】 定期試験	
単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野 (救急症候・病態生) 精神医学</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 當間 泰子</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 精神疾患とはどういったものか、救急とどう関係するのかを学び、精神疾患患者との対応方法を学ぶ。 精神疾患とその特徴について理解する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 【第 1 回】 オリエンテーション・精神医学総論 【第 2 回】 睡眠障害・摂食障害 【第 3 回】 急性ストレス障害と外傷後ストレス障害 【第 4 回】 医療従事者と PTSD・災害と PTSD 【第 5 回】 PTSD の治療と支援について 【第 6 回】 ADHD・自閉症 【第 7 回】 躁病・うつ病 【第 8 回】 躁病・うつ病の治療と支援について 【第 9 回】 パニック障害・解離性障害 【第 10 回】 自損行為 【第 11 回】 統合失調症の歴史と特徴 【第 12 回】 統合失調症の病型と経過、治療、社会支援 【第 13 回】 臨床心理士と心理検査 【第 14 回】 救急救命士国家試験の過去の出題傾向 【第 15 回】 定期試験 	
<p>単位認定の方法及び基準]</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>やさしい心理学 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 2年 通年
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 専門分野 (外傷救急医学) 救急症候学IV
〔時間、単位数〕 90 時間 6 単位	〔担当教員及び実務経験〕 山口裕・上江洲安勝 医師及び看護師として実務経験
〔授業の目的および概要〕 救急医療の中の救急隊員、救急救命士の役割について詳説し、救急救命士を目指す自覚を持たせる。外傷病院前救護ガイドラインを詳説する。外傷各論について概説する。 テキストを基準に講義を進めるが、必要に応じて資料配布や映像教材による講義を行う外傷の基礎知識の習得に努める。また、実際の症例や写真などの資料を元に実際の救急傷病者のイメージを持つとともに、処置内容等についても学ぶ。	
〔授業内容〕 【第 1～ 2 回】 ガイダンス 『外傷総論』 外傷の疫学・受傷機転とエネルギー・外傷の分類等 【第 3～ 4 回】 『外傷の病態生理』 侵襲への反応・外傷に伴うショック等 【第 5～ 6 回】 『外傷の現場活動』 状況評価・傷病者の評価 【第 7～ 9 回】 『頭部外傷』 特徴・主な外傷・続発症、後遺症・現場活動 【第 10～12 回】 『顔面・頸部外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 13～15 回】 『脊椎・脊髄外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 16～18 回】 『胸部外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 19 回】 『定期試験』 中間試験 【第 20～22 回】 『腹部外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 23～25 回】 『骨盤外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 26～28 回】 『四肢外傷』 特徴・主な外傷・現場活動 【第 29～30 回】 『皮膚・軟部組織外傷』 分類・現場活動・特殊な損傷 【第 31～32 回】 『妊婦・小児・高齢者の外傷』 小児の外傷・高齢者の外傷・妊婦の外傷 【第 33～35 回】 『熱傷』 受傷機転と病態・評価・処置 【第 36～38 回】 『化学損傷』 各種の化学損傷・観察・処置 【第 39～40 回】 『電撃症・雷撃症』 電撃症・雷撃症 【第 41～42 回】 『縊頸・絞頸』 縊頸、絞頸とは・観察と処置 【第 43～44 回】 『刺咬症 (傷)』 刺咬症 (傷) とは・爬虫類による咬症・その他の刺咬症 【第 45 回】 『定期試験』 期末試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績は A : 80～100 点 B : 70～79 点 C : 60～69 点 D : 59 点以下とし、C 以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第 9 版 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（環境障害・中毒） 環境障害</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 玉那覇 敏男 救急救命士（消防職）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 中毒・熱中症・低体温等による環境が人に影響することについて学習する。 環境による影響で生じる救急疾患の授業を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 ガイダンス（講義の進め方等） 『中毒総論』 中毒性物質 【第2回】 『中毒総論』 観察地処置 【第3回】 『中毒総論』 医療機関での診療・医療機関選定と搬送中の注意 【第4回】 『中毒総論』 中毒情報 【第5回】 『中毒各論』 睡眠薬・向精神薬・解熱鎮痛剤 【第6回】 『中毒各論』 農薬中毒（パラコート・有機リン系殺虫剤等） 【第7回】 『中毒各論』 工業用品中毒（重金属・有機溶剤・シアン） 【第8回】 『中毒各論』 ガス中毒（一酸化炭素・硫化水素・亜硫酸ガス。塩素ガス） 【第9回】 『中毒各論』 アルコール中毒・家庭用品中毒・薬物乱用・その他 【第10回】 『熱中症』 病態生理・観察・処置・搬送時の注意 【第11回】 『異物』 気道異物・消化管異物・その他の異物 【第12回】 『溺水』『偶発性低体温』 発生機序と病態生理・観察 【第13回】 『放射線障害』 放射線の概要・人体絵への影響・放射線への対応・観察と処置 【第14回】 『その他の環境障害』 高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害 【第15回】 定期試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次及び期間〕 1年 前期
〔教育内容〕 実 習	〔科目名〕 専門分野（臨地実習） 救急救命実習 I
〔時間、単位数〕 225 時間 5 単位	〔担当教員及び実務経験〕 上原 義史 救急救命士（消防職）としての経験
〔授業の目的及び概要〕 救急救命士として必要な基礎知識、スキルを習得させ、団体行動の基本である規律や報告等の基本動作を身につけさせる。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなチームワークの精神を育てるとともに、医療人である自覚を認識させる 成人、小児の心肺蘇生法を基本とする「一次救命処置」を中心に止血や異物除去、三角巾や包帯法といった一般市民が行える処置の基本技術を習得させる。また、規律訓練を行い、集団行動に必要な規律を習得させる。 ※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合及び個人装備準備不足の場合、実習に参加できない。	
〔授業内容〕 【第 1～ 2 回】 『オリエンテーション』 ・ 『規律訓練』 訓練礼式 【第 3～ 10 回】 『集団行動訓練』 奥間研修（1～3年学年合同研修） 【第 11～ 26 回】 『BLS 活動訓練』 BLS の基本手技（心肺蘇生法） 【第 27～ 29 回】 『BLS 活動訓練試験』 BLS の基本手技の確認試験 【第 30～ 32 回】 『止血法』 直接圧迫止血法・止血点法・止血帯法等 【第 33～ 35 回】 『搬送法』 体位管理・徒手搬送法・器具を使った搬送法 【第 36～ 81 回】 『CPA 隊活動訓練』 【第 82～ 85 回】 『CPA 隊活動訓練試験』 【第 86～ 88 回】 『喉頭展開手技』 喉頭鏡の基本手技 【第 88～ 91 回】 『酸素投与手技』 酸素投与の目的、適応、資機材および投与方法 【第 92～ 99 回】 『大規模災害座学』 MCLS に基づいた大規模災害対応 【第 100～112 回】 『大規模災害対応訓練』 【第 113～115 回】 『消防学校展示訓練見学』 【第 116～119 回】 『気道異物除去訓練』 用手による除去法・器具を使った除去法 【第 120～123 回】 『バイタル測定手技』（意識・気道・呼吸・循環の評価）（血圧・体温測定等） 【第 124～137 回】 『業界研究』 消防本部（局）視察等 【第 138～150 回】 『地域救急医療貢献活動』 各種スポーツ大会等における救急医療支援活動	
〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 ・ 救急救命士標準テキスト改訂第9版 ・ 救急資器材マニュアル ・ JPTEC ガイドブック ※必要に応じて資料を配布する。

授 業 概 要

〔学科名〕 <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	〔実施年次及び期間〕 <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
〔教育内容〕 <p style="text-align: center;">実 習</p>	〔科目名〕 専門分野（臨地実習） <p style="text-align: center;">救急救命実習Ⅱ</p>
〔時間、単位数〕 <p style="text-align: center;">180時間 4単位</p>	〔担当教員及び実務経験〕 上原 義史 消防職員（救急救命士）としての経験
〔授業の目的及び概要〕 応急処置の理論と基本的実技の実習を通じて理解させる。観察の基本、傷病者対応等を学び、前期から引き続いた隊活動を主に実施し、心肺停止傷病者、外傷傷病者における救急隊活動を重点に行う。 ※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合及び個人装備準備不足の場合、実習に参加できない。	
〔授業内容〕 【第 1～ 6回】 ガイダンス（授業の進め方） 『気道異物隊活動』 【第 7～ 8回】 『吸引手技操作』 【第 9～ 18回】 『蘇生後対応』 【第 19～ 30回】 『JPTEC 活動』 【第 31～ 34回】 『車外救出』 【第 35～ 40回】 『JPTEC 活動』 【第 41～119回】 『内因性疾患対応』 【第 120回】 『科目終了試験』	
〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA:80～100点B:70～79点C:60～69点D:59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 ・ 救急救命士標準テキスト改訂第9版 ・ JPTEC ガイドブック ※必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実氏年次および期間〕 2年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実 習</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（臨地実習） 救急救命実習Ⅲ</p>
<p>〔時間、単位数〕 225 時間 5 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 高嶺 和寛 救急救命士（病院勤務）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 特定行為の理論と基本的実技について具体的な実習を通じて理解させる。 特定行為実施要領、指示要請要領、気道確保手技、外傷処置要領、救急活動想定訓練</p> <p>※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1～4 回】『ガイダンス』『規律訓練』訓練礼式 【第 5～12 回】『団体行動訓練』奥間研修（1～3 学年合同研修） 【第 13～16 回】『喉頭展開復習』 【第 17～27 回】『特定行為手技』気管挿管・静脈路確保・アドレナリン投与手技 【第 28～31 回】『特定行為指示要請』 【第 32～98 回】『特定行為対活動』 【第 99～102 回】『特定行為隊活動試験』 【第 103～114 回】『地域救急医療支援活動』各種スポーツ大会等医療支援活動 【第 115～122 回】『大規模災害訓練座学』 【第 123～142 回】『大規模災害訓練座実技』 【第 143～150 回】『特定行為手技』LT・LM・WB 等</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C 以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 J P T E C ガイドブック ビジュアルノート 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 実 習</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（臨地実習） 救急救命実習Ⅳ</p>
<p>〔時間、単位数〕 180時間 4単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 高嶺 和寛 救急救命士（病院勤務）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急救命処置概論の理論と基本的実技については具体的な実習を通じて理解させる。 内因性疾患を中心に行い、後半は全疾患を扱う総合シミュレーションとする。 内因性疾患傷病者に対する想定訓練および問診、観察訓練総合活動訓練（CPA・内因性・外因性・小児・分娩・多数傷病者等）</p> <p>※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1回】『特定行為手技』LT・LM・WB等 【第 2～16回】『特定行為手技隊活動』LT・LM・WB等 【第 17～21回】『特定行為手技』血糖値測定・ブドウ糖投与手技 【第 22～23回】『エピペン使用方法』 【第 24～46回】『PEMEC活動』 【第 47～63回】『PSLS活動』 【第 64～90回】『PTO活動』 【第 91～119回】『総合訓練』 【第 120回】『科目終了試験』</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.定期試験(実技を含む)の得点・・・70% 2.実習レポートの得点・・・20% 3.欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4.出席率・授業態度・・・10% 5.成績はA:80～100点B:70～79点C:60～69点D:59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 JPTECガイドブック ビジュアルノート 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次及び科目〕 3年 前期</p>
<p>〔教育内容〕 実 習</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（臨地実習） 救急救命実習V</p>
<p>〔時間、単位数〕 45 時間 1 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 高嶺 和寛 救急救命士（病院勤務）として実務経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 救急救命士として必要な知識・技術の総まとめとし、「病院実習」・「救急用自動車同乗実習」に必要となるスキル・知識のチェック試験を行い、救急救命士になるための最終実習であることを自覚させ、医療人となるべく人材育成をする。 臨地実習前トレーニングを取り入れ、コミュニケーションからインフォームドコンセントの方法や院内用医療技術を身に付ける。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第 1～ 8 回】『集団行動訓練』奥間研修 【第 9～10 回】『BLS 筆記試験』 【第 11～12 回】『BLS 実技試験』 【第 13～14 回】『バイタル測定』 【第 15～16 回】『生理学検査数値』 【第 17～18 回】『12誘導心電図』 【第 19～20 回】『静脈路確保』 【第 21～22 回】『薬剤投与』 【第 23～24 回】『気管挿管』 【第 25～26 回】『血糖値測定』 【第 27～28 回】『ブドウ糖投与』 【第 29～30 回】『定期テスト』</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料配布</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 3年 通年</p>
<p>〔教育内容〕 実 習</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（臨地実習） 救急車同乗実習</p>
<p>〔時間、単位数〕 90 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕各消防本部救急救命士 救急救命士として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>救急救命士養成所指定規則（平成3年文部省/厚生省令第2号）第4条第1項第10号に基づき救急用自動車同乗実習を実施し、救急救命士を目指す学生の資質向上に努めている。</p> <p>消防機関において救急自動車同乗実習を行うことにより、一連の救急活動（出場・救急事故現場・搬送・医療機関収容）について実習に学習し、チームとしての救急活動を理解する。</p> <p>救急救命士養成所指定規則（平成3年文部省/厚生省令第2号）第4条第1項第10号に基づき救</p> <p>※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。各消防本部の実習内容に準ずる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>救急用自動車同乗実習に関する協定書に基づき、現住所及び本籍を有する市町村消防本部救急車同乗実習を実施する。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>消防機関実習評価・実習記録を評価。出席数が規定に満たない場合、単位を認めない。</p> <p>成績はA：80～100点B：70～79点C：60～69点D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版 救急用自動車実習要領を配布。</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">3年 通年</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">実 習</p>	<p>〔科目名〕 臨地実習</p> <p style="text-align: center;">病院実習</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">180 時間 4 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕各医療機関医師看護師 医師及び看護師としての経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>救急救命士学科の授業、シミュレーション実習で習得した知識や技術を基に救命救急センター等で臨地実習を行う。医療機関では、多くの職種が専門知識として働いており、チーム医療を実践している事を体験により理解する。また、救急搬送された患者が医療機関でどのように治療されているかを見学することにより、救急隊と医療機関との連携の大切さを理解する。 ※この科目履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切だと担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>臨地実習は、原則として前期に実施する。人数は各医療機関で2～6名程度とし、180時間を基準とする。実習の方法、内容は配置先により異なる場合がある。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>各医療機関指導医師、及び看護師の指示による。</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>指導医師の評価、レポート等により総合的に評価する。出席日数が規定に達しない場合、単位不可とする。</p> <p>成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版 各種テキスト</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（研究科目）</p> <p style="text-align: center;">救急救命研究 I</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">30時間 2単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 渡久地 佑太</p> <p>救急救命士（病院勤務）として経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>講義では、救急医療と関連の深いトピックスを取り上げ、資料検索と調査・研究、グループ内討論、発表、全体討議、教員からのコメントなどにより、医療職種として幅広い人間性と救急救命士としての考え方を養い。単に知識を詰め込むのではなく、問題点を整理して考える力を養うことを目的とする。</p> <p>授業計画に例示するトピックスや興味ある事例についてグループごとに討議をして発表し、それに関連したコメントや講義を行う。グループ内での役割を交代する事によりチームプレーの重要性を体験する。救急救命士の知っておくべき用語を整理して発表する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】『オリエンテーション』プレゼンテーション方法・技法について</p> <p>【第2回】『心肺蘇生法について』資料収集及び研究</p> <p>【第3回】『心肺蘇生法について』グループ討議</p> <p>【第4回】『心肺蘇生法について』プレゼンテーション作成</p> <p>【第5回】『心肺蘇生法について』発表・評価</p> <p>【第6回】『救急隊の現場活動について』資料収集及び研究</p> <p>【第7回】『救急隊の現場活動について』グループ討議</p> <p>【第8回】『救急隊の現場活動について』プレゼンテーション作成</p> <p>【第9回】『救急隊の現場活動について』発表・評価</p> <p>【第10回】『自由課題』資料収集及び研究</p> <p>【第11回】『自由課題』グループ討議</p> <p>【第12回】『自由課題』グループ討議</p> <p>【第13回】『自由課題』プレゼンテーション作成</p> <p>【第14回】『自由課題』プレゼンテーション作成</p> <p>【第15回】『自由課題』発表・評価</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>1. テーマ研究内容、発表内容を総合的に判断し採点する。</p> <p>2. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト〕</p> <p>必要に応じ配布する。</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">2年 前期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（研究科目）</p> <p style="text-align: center;">救急救命研究Ⅱ</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 渡久地 佑太</p> <p style="text-align: center;">救急救命士（病院勤務）として経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕</p> <p>救急救命士に必要な倫理や医療問題を注視し、各々の立場に立ち問題点の抽出や解決策を提案し、プレゼンテーションをすることで自分の意見を述べ、質問に対する対応能力を身につける。救急医療が直面する脳死や臓器移植等の数多くある問題点や倫理観を主観的、客観的立場の両面から注視し、研究、調査を行い問題提起および、解決方法を模索しプレゼンテーションを行う。テーマを作成し、そのテーマに沿った資料収集、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーションを行い、意見交換を実施する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 オリエンテーション・プレゼンテーション方法・技法について</p> <p>【第2回】 『救急医療と脳死について』 資料収集及び研究</p> <p>【第3回】 『救急医療と脳死について』 グループ討議</p> <p>【第4回】 『救急医療と脳死について』 プレゼンテーション作成</p> <p>【第5回】 『救急医療と脳死について』 発表・評価</p> <p>【第6回】 『DNAR と救急活動について』 資料収集及び研究</p> <p>【第7回】 『DNAR と救急活動について』 グループ討議</p> <p>【第8回】 『DNAR と救急活動について』 プレゼンテーション作成</p> <p>【第9回】 『DNAR と救急活動について』 発表・評価</p> <p>【第10回】 『自由課題』 資料収集及び研究</p> <p>【第11回】 『自由課題』 グループ討議</p> <p>【第12回】 『自由課題』 グループ討議</p> <p>【第13回】 『自由課題』 プレゼンテーション作成</p> <p>【第14回】 『自由課題』 プレゼンテーション作成</p> <p>【第15回】 『自由課題』 発表・評価</p>	
<p>〔単位認定の方法および基準〕</p> <p>1. テーマ研究内容、発表内容を総合的に判断し評価する。</p> <p>2. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版</p> <p>必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 2年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 専門分野（研究科目） 救急救命研究Ⅲ</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 渡久地 佑太 救急救命士（病院勤務）として経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急医療全般を主眼に置き、テーマ作成、研究、プレゼンテーションを行う。</p> <p>内容は自由とするが、救急医学に携わる医療人としての内容を必ず盛り込むこととし、グループまたは、個人で実施する。プレゼンテーション能力、理解力、自発性を養うことを主眼に置き、問題点の抽出ができる人材育成を行う。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1回】 オリエンテーション・プレゼンテーション方法・技法について 【第2回】 『自由課題①』 資料収集及び研究 【第3回】 『自由課題①』 グループ討議 【第4回】 『自由課題①』 プレゼンテーション作成 【第5回】 『自由課題①』 発表・評価 【第6回】 『自由課題②』 資料収集及び研究 【第7回】 『自由課題②』 グループ討議 【第8回】 『自由課題②』 プレゼンテーション作成 【第9回】 『自由課題②』 発表・評価 【第10回】 『自由課題③』 資料収集及び研究 【第11回】 『自由課題③』 グループ討議 【第12回】 『自由課題③』 グループ討議 【第13回】 『自由課題③』 プレゼンテーション作成 【第14回】 『自由課題③』 プレゼンテーション作成 【第15回】 『自由課題③』 発表・評価</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 プレゼンテーション内容、研究過程を総合評価し、採点する。出席率が規定を下回る場合、評価対象としない。 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次及び期間〕</p> <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養科目</p> <p style="text-align: center;">基礎解剖学</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 蔵元 秀一</p> <p>理学療法士としての実務経験</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕</p> <p>人体を理解するため、基礎医学である人体各部の構造をふまえ、人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得するとともに理解する。講義はテキストに沿って重要事項や解剖用語を説明し、模式図を板書し、写真や図・表などパワーポイントなどを活用し学習する。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1・2回】『ガイダンス』講義の進め方等『消化系』消化器・口腔・咽頭・消化管・肝臓</p> <p>【第3・4回】『消化系』胆道系・膵臓・腹膜・腹腔</p> <p>【第5・6回】『泌尿系』泌尿器の構造・腎臓・尿路</p> <p>【第7・8回】『生殖系』生殖器の構造と役割・男性生殖器・女性生殖器</p> <p>【第9・10回】『内分泌系』内分泌</p> <p>【第11・12回】『内分泌系』内分泌器官・</p> <p>【第13・14回】『血液・免疫系』血液・血球・血漿</p> <p>【第15・16回】『血液・免疫系』脊髄の構造と機能・脾臓</p> <p>【第17回】定期試験（中間試験）第1回から第16回のまとめ</p> <p>【第18・19回】『血液・免疫系』止血と凝固・免疫</p> <p>【第20・21回】『筋・骨格系』筋、骨格・筋肉・骨</p> <p>【第22・23回】『筋・骨格系』関節・靭帯・腱・脊柱の構造</p> <p>【第24・25回】『皮膚系』皮膚の構造・皮膚の役割・乳房</p> <p>【第26・27回】『生命の維持』栄養と代謝・外呼吸・循環・</p> <p>【第28・29回】『生命の維持』組織酸素代謝・内部環境</p> <p>【第30回】定期試験（期末試験）</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版</p> <p>全部わかる人体解剖図</p> <p>必要に応じ資料配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 3年 通年</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養科目 実践演習</p>
<p>〔時間、単位数〕 21 単位 315 時間</p>	<p>〔担当教員及び字通経験〕 安里 常要 他 救急救命士として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 救急救命士学科3年間の集大成として各科目の重要部分を復習し救急救命士として必要な知識を再確認するとともに、国家試験対策を実施し国家試験の合格率向上を図る。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第 1～ 20 回】 『公衆衛生・救急医学概論』 模擬試験等（担当：安里常要） 【第 21～ 40 回】 『人体の機能・人体の機能』 模擬試験等（担当：高嶺和寛） 【第 41～ 60 回】 『救急症候・病態生』 模擬試験等（担当：玉那覇敏夫） 【第 61～ 80 回】 『患者の成り立ちと回復の過程』 模擬試験等（担当：渡久地佑太） 【第 81～100 回】 『疾病救急医学』 模擬試験等（担当：玉那覇敏夫） 【第 101～120 回】 『外傷救急医学』 模擬試験等（担当：安里常要） 【第 121～140 回】 『環境障害・中層』 模擬試験等（担当：高嶺和寛） 【第 141～157 回】 『国家試験模擬試験』（担当：学科教員）</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点B：70～79点C：60～69点D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 救急救命士標準テキスト改訂第9版 必要に応じて配布</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 3年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養科目 基礎医学</p>
<p>〔時間、単位数〕 60時間 4単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 蔵元 秀一</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>国家試験対策の一環とし、基礎解剖学、生理学を重点におき実施することで、救急救命士国家試験の正答率を向上させ、合格につなげる。また、学生の一番の弱点である「解剖学」を徹底的に実施する。</p> <p>講義形式で行い、小テストや国家試験の過去問を中心に実施し、誤答した箇所を確認し、確実に知識として身につけさせる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第1・2回】 ガイダンス『神経系』 神経系に係る復習及び過去問の実施解説 【第3・4回】 『感覚系』 感覚器に係る復習及び過去問の実施解説 【第5・6回】 『呼吸系』 呼吸器に係る復習及び過去問の実施解説 【第7・8回】 『循環器系』 循環器系に係る復習及び過去問の実施解説 【第9・10回】 『循環器系』 循環器系に係る復習及び過去問の実施解説 【第11・12回】 『消化器系』 消化器に係る復習及び過去問の実施解説 【第13・14回】 『泌尿系』 泌尿器に係る復習及び過去問の実施解説 【第15・16回】 『生殖系』 生殖器に係る復習及び過去問の実施解説 【第17回】 定期試験（中間試験）第1回から第16回のまとめ 【第18・19回】 『内分泌系』 内分泌に係る復習及び過去問の実施解説 【第20・21回】 『血液・免疫系』 血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説 【第22・23回】 『血液・免疫系』 血液・免疫系に係る復習及び過去問の実施解説 【第24・25回】 『筋・骨格系』 筋・骨格系に係る復習及び過去問の実施解説 【第26・27回】 『皮膚系』 皮膚系に係る復習及び過去問の実施解説 【第28・29回】 『生命の維持』 生命の維持に係る復習及び過去問の実施解説 【第30回】 定期試験（期末試験）</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂9版 必要に応じ教材配布</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕</p> <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕</p> <p style="text-align: center;">3年 後期</p>
<p>〔教育内容〕</p> <p style="text-align: center;">講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養科目</p> <p style="text-align: center;">疾病・病態学</p>
<p>〔時間、単位数〕</p> <p style="text-align: center;">60 時間 4 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 村田 謙二・安里常要 医師・救命士として実務経験</p>
<p>〔授業の目的および概要〕</p> <p>救急救命士国家試験対策の一環として、疾病救急の確実な医学知識、病態生理学を身につけ、国家試験の合格につなげる。また、将来の救急救命士を担う人材育成を目的とする。</p> <p>講義は、国家試験過去問題を中心に医学各論を行う。また、鑑別診断(判断)かができる知識を身につけさせる。</p>	
<p>〔授業内容〕</p> <p>【第 1 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 16 回】 模擬試験及び解説 【第 2 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 17 回】 模擬試験及び解説 【第 3 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 18 回】 模擬試験及び解説 【第 4 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 19 回】 模擬試験及び解説 【第 5 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 20 回】 模擬試験及び解説 【第 6 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 21 回】 模擬試験及び解説 【第 7 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 22 回】 模擬試験及び解説 【第 8 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 23 回】 模擬試験及び解説 【第 9 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 24 回】 模擬試験及び解説 【第 10 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 25 回】 模擬試験及び解説 【第 11 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 26 回】 模擬試験及び解説 【第 12 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 27 回】 模擬試験及び解説 【第 13 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 28 回】 模擬試験及び解説 【第 14 回】 模擬試験及び解説 (村田 謙二) 【第 29 回】 模擬試験及び解説 【第 15 回】 定期試験 【第 30 回】 定期試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験（実技を含む）の得点・・・70% 2. 実習レポートの得点・・・20% 3. 欠席による実習レポート未提出は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。 	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p> <p>救急救命士標準テキスト改訂第9版 救急救命士国家試験問題集 必要に応じ資料を配付</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養分野 判断推理</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 中村 昌利</p>
<p>〔授業の目的および概要〕 判断推理を学ぶことにより、与えられた条件を整理してそこから導き出せる結果を推測する柔軟な思考力や事務処理能力を身につけることを目的とする。また、公務員試験で課される主要科目であり公務員試験対策の一環として判断推理について理解を深めるとともに、救急救命士としての問題を解決する能力を醸成することになる。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第 1 回】 オリエンテーション・『暗号・集合・命題』 暗号の解読 【第 2 回】 『暗号・集合・命題』 集合の素数・命題の真偽 【第 3 回】 『文章で表され条件』 対応関係・順序関係 【第 4 回】 『文章で表され条件』 試合の勝ち負け・発言の真偽 【第 5 回】 『数量で表された条件』 操作と方法 【第 6 回】 『数量で表された条件』 数量の関係 【第 7 回】 『数量で表された条件』 経路と距離 【第 8 回】 『方位と位置』 方位と方角 【第 9 回】 『方位と位置』 相互の位置関係 【第 10 回】 『平面図形』 図形の切断と公正 【第 11 回】 『平面図形』 折り紙と模様 【第 12 回】 『平面図形』 点と移動の軌跡・図形のつながり 【第 13 回】 『空間図形』 立法の組み立て・展開とその応用 【第 14 回】 『空間図形』 投影図とその応用・立体の回転と切断 【第 15 回】 『定期試験』 期末試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100 点 B：70～79 点 C：60～69 点 D：59 点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕 公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理</p>

授 業 概 要

<p>〔学科名〕 救急救命学科</p>	<p>〔実施年次および期間〕 1年 後期</p>
<p>〔教育内容〕 講 義</p>	<p>〔科目名〕 教養科目 社会総合</p>
<p>〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位</p>	<p>〔担当教員及び実務経験〕 宮里 盛弘</p>
<p>〔授業の目的及び概要〕 わが国の司法・行政・立法について救急救命士並びに公務員として基本的かつ重要な分野についての知識をインプットする。インプットした知識を確実にアウトプットできるようにする。まず基礎的な解説や重要事項の整理を通して知識のインプットを図る。次に、演習問題を解くことで知識を正確にアウトプットできるようにすると同時に応用力も身につける。</p>	
<p>〔授業内容〕 【第1回】 民主政治 【第2回】 日本国憲法 【第3回】 基本的人権・日本国憲法 【第4回】 基本的人権 【第5回】 立法権 【第6回】 立法権 【第7回】 国会 【第8回】 行政権 【第9回】 内閣 【第10回】 司法権 【第11回】 裁判所 【第12回】 地方自治 【第13回】 選挙制度と政党政治 【第14回】 国際政治 【第15回】 期末試験</p>	
<p>〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。</p>	<p>〔使用テキスト、参考文献〕</p>

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 1年 後期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 教養科目 人文科学
〔時間および単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 知名 秀子
〔授業の目的・概要〕 わが国の歴史を通し救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。併せて公務員試験に合格できる基礎学力をつける。 各目次のキーポイントである基本事項・重要事項を理解し確認させ、流れの中で上記事項を定着させる。そして演習問題を解いていく中で、特に「できなかった」ことを考えさせながら、当該問題を繰り返す。	
〔授業内容〕 【第1回】『ガイダンス』日本史の学習を始める前に『旧石器時代～推古朝』 【第2回】『律令国家の形成～奈良時代』 【第3回】『平安時代』 【第4回】『鎌倉時代』 【第5回】『建武の新政～室町時代』 【第6回】『戦国時代～桃山(織豊政権) 時代』 【第7回】『江戸時代(初期～三大改革)』 【第8回】『江戸時代(初期～三大改革)』 【第9回】『江戸末期』 【第10回】『江戸末期』 【第11回】『明治初期～日清戦争』 【第12回】『明治初期～日清戦争』 【第13回】『明治中期～太平洋戦争』 【第14回】『明治中期～太平洋戦争・終戦後、文化史』 【第15回】『期末試験』	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 ・ 詳説日本史仙川出版) ・ 新詳日本史(地図・資料・年表)(浜島書店)

授 業 概 要

〔学科名〕 <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	〔実施年次および期間〕 <p style="text-align: center;">1年 後期</p>
〔教育内容〕 <p style="text-align: center;">講 義</p>	〔科目名〕 教養科目 <p style="text-align: center;">英 語</p>
〔時間、単位数〕 <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	〔担当教員及び実務経験〕 玉城 要
〔授業の目的および概要〕 救急救命士として必要となる基礎医学英語を取り入れ、グローバル社会に対応できる人材を育成する。また基礎単語から英文読解を習得するとともに、公務員試験対策に対応できる知識を身につける。	
〔授業内容〕 【第1回】 ガイダンス（講義の進め方） 動詞（現在形） 【第2回】 動詞（過去形） 【第3回】 否定文・疑問文 【第4回】 進行形 【第5回】 助動詞 【第6回】 名詞 【第7回】 代名詞 【第8回】 形容詞 【第9回】 命令文・感嘆文 【第10回】 受動態 【第11回】 現在完了 【第12回】 医学用語単語 【第13回】 公務員試験対策 【第14回】 公務員試験対策 【第15回】 定期試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト〕 病院で使えるイラスト英単語 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 1年 後期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 教養科目 危険物基礎学
〔時間、単位数〕 30 時間 2 単位	〔担当教員及び実務経験〕 安里 常要
〔授業の目的および概要〕 物理化学・消火・消防法の知識習得をさせ、危険物取扱者乙種4類免許試験合格を目指す。危険物取扱者テキストを使用し、基礎知識、基礎化学、関係法令を学び資格試験合格を目指す。	
〔授業内容〕 【第1回】 ガイダンス（講義の進め方等）『物理学と化学の基礎知識』物理学と化学の基礎知識 【第2回】 『物理学と化学の基礎知識』 燃焼の基礎知識 【第4回】 『物理学と化学の基礎知識』 消火に関する基礎知識 【第4回】 「危険物に関する法令」 【第5回】 『危険物の性質並びにその火災予防及び消火方法』 【第6回】 『第四類以外の危険物の概論』 【第7回】 『第四類危険物の概論』 第四類危険物とその性質 【第8回】 模擬試験 【第9回】 『第四類危険物の概論』 火災予防と貯蔵、取扱い及び消火の方法 【第10回】 『第四類危険物の概論』 第4類危険物の主な品名とその性質 【第11回】 『第四類危険物の概論』 第4類危険物の主な品名とその性質 【第12回】 『危険物に関する法令』 消防法 【第13回】 『危険物に関する法令』 危険物の規制に関する政令 【第14回】 『危険物に関する法令』 危険物の規制に関する規則 【第15回】 定期試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト〕 乙4類危険物取扱者受験教科書 必要に応じ資料配付

授 業 概 要

〔学科名〕 <p style="text-align: center;">救急救命学科</p>	〔実施年次および期間〕 <p style="text-align: center;">1年 前期</p>
〔教育内容〕 <p style="text-align: center;">講 義</p>	〔科目名〕 教養科目 <p style="text-align: center;">潜水土基礎学</p>
〔時間、単位数〕 <p style="text-align: center;">30 時間 2 単位</p>	〔担当教員及び実務経験〕 安里 常要
〔授業の目的および概要〕 潜水業務・高気圧障害及び関係法令を理解するとともに知識の習得を図り潜水土国家試験合格を目標とする。	
〔授業内容〕 【第1回】 ガイダンス（講義の進め方）・『潜水業務に関する基礎知識』 潜水の歴史 【第2回】 『潜水業務に関する基礎知識』 潜水の物理学・潜水の種類・潜水業務の管理 【第3回】 『潜水業務の危険性および事故発生時の措置』 潜水業務の危険性 【第4回】 『潜水業務の危険性および事故発生時の措置』 潜水事故の種類と予防 【第5回】 『各種潜水器』 ヘルメット式・フーカー式 【第6回】 『各種潜水器』 マスク式・スクーパー式 【第7回】 『送気、潜降及び浮上』 潜水に必要な送気の方法 【第8回】 『模擬試験』 【第9回】 『送気、潜降および浮上』 潜降及び浮上 【第10回】 『高気圧障害』 潜水の生理学 【第11回】 『高気圧障害』 潜水による障害及び対策 【第12回】 『高気圧障害』 潜水の健康管理・潜水業務に必要な救急処置 【第13回】 『関係法令』 労働安全衛生法・労働安全規則 【第14回】 『関係法令』 高気圧作業安全規則 【第15回】 『定期試験』 期末試験	
〔単位認定の方法及び基準〕 ※学習成果に重点を置き、次の方法と評価割合で評価する。 1. 定期試験の得点・・・70% 2. 講義確認試験の得点・・・20% 3. 確認試験の欠席は公欠を除き、平均点の母数に加える。 4. 出席率・授業態度・・・10% 5. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 7日間マスター潜水土試験合格テキスト 必要に応じ資料を配付

授 業 概 要

〔学科名〕 救急救命学科	〔実施年次および期間〕 3年 前期
〔教育内容〕 講 義	〔科目名〕 教養科目 公務員基礎応用学
〔時間、単位数〕 105時間 7単位	〔担当教員〕 中玉利 澄男 他
〔授業の目的および概要〕 公務員試験対策の一環とし、集中講義を実施する。 公務員試験過去問題、応用学を中心に、公務員試験に必要な知識を身につけ、希望就職先の試験に合格できるよう対策を行う。	
〔授業内容〕 【第1～5回】 『判断推理』 暗号・集合・命題・平面図形・空間図形・方位と位置 【第6～10回】 『人文科学』 日本史・世界史・地理・倫理 【第11～15回】 『社会科学』 政治・経済・社会 【第16～20回】 『物理』 力のつり合い・物体の運動・電気・波動・熱・原子物理 【第21～25回】 『化学』 基礎理論・物質の変化・無機物質・有機化合物 【第26～29回】 『生物』 生物体の構造と機能・代謝とエネルギー・生物反応と調整 【第30～33回】 『文章理解』 文章理解・資料解釈 【第34～45回】 『地学』 地球の大気と海洋・天気の変化・太陽系と宇宙・地球の構成と歴史 【第50～29回】 『数的推理』 数式と計算・方程式・不等式の応用・図形・場合の数・確率 【第53～54回】 『定期試験』	
〔単位認定の方法及び基準〕 1. 定期試験を実施し評価する。 2. 出席数が規定に満たない場合、定期試験の受験を認めない。 3. 成績はA：80～100点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下とし、C以上を合格とする。	〔使用テキスト、参考文献〕 公務員初級 応用 必要に応じ資料配付